

# 世界の“手榴弾”

WORLD of the HAND GRENADE

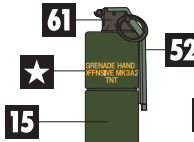
## デカールの貼り付け位置 / 塗装参考

1 内の番号は、GSIクレオスの Mr. カラーの番号です。無塗装パーツは、メランスポンジで擦るか、ツヤ消しトップコートを使って、プラのツヤを抑えるなどリアルな質感になります。  
※彩色した模型は、フィギュアの PVC と擦れた場合色移りすることがありますのでご注意ください。

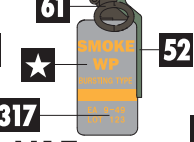
US(アメリカ)



**Mk.2 1918~**  
WW1後に採用され、WW2期に米軍で使われた破片手榴弾。通称“パイナップル”。



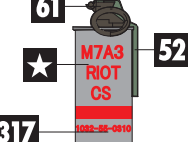
**Mk.3 1918~**  
WW1後に採用された爆発力で対象を殺傷する攻撃型手榴弾。



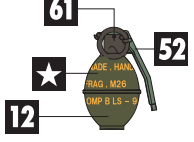
**M15 193x~**  
第二次大戦期の白燐手榴弾。発煙による信号伝達、遮蔽、焼夷目的に使用される。自衛隊でも使用。



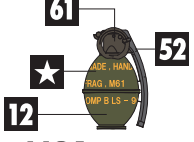
**M18 1942~**  
発煙手榴弾。識別用にボディ上面は煙と同じカラーで塗られている。



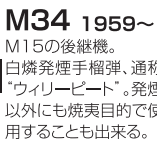
**M7 1942~**  
M18と同じボディを用いた催涙ガス・グレナード。ガスは底面から噴出する。



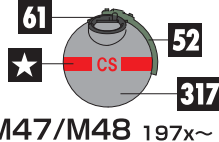
**M26 195x~**  
Mk2の後継機の破片手榴弾。通称“レモン”。英軍や自衛隊でも同タイプを採用。



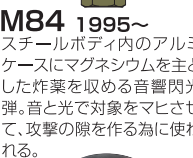
**M61 195x~**  
M26に2重安全装置としてレバーを止めるクリップが追加された改良モデル。



**M34 1959~**  
M15の後継機。白燐発煙手榴弾。通称“ワイリービード”。発煙以外にも焼夷目的で使用する事も出来る。



**M47/M48 197x~**  
ゴム製ボディを備えるCSガスグレナード。本製品にはM47とXM47E3、訓練用赤燐弾M48のデカールを収録。



**M84 1995~**  
スチールボディ内のアルミケースにマグネシウムを主とした炸薬を収める音響閃光弾。音と光で対象をマヒさせて、攻撃の隙を作る為に使われる。

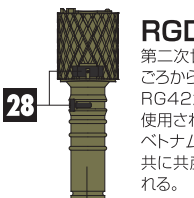


**Mk.13 2005~**  
特殊部隊で愛用される音響閃光弾。M84は陸軍向け。Mk.13は海軍向けだ。通称“スタン・グレナード”(警察用語ではフラッシュパン)。

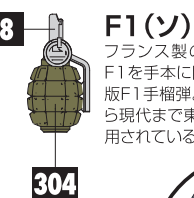


**SOHG 2015~**  
米特殊部隊向けとして評価試験が実施されたモジュール式セパレートグレナード。攻撃型手榴弾 Mk.21。

USSR(ソ連)



**RGD33 1933~**  
第二次世界大戦の中期ごろから使われ、後継のRG42が普及するまで使用された柄付手榴弾。ベトナム戦争でもF1と共に共産陣営に使用される。



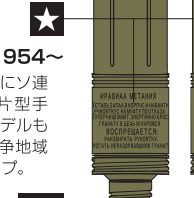
**F1(ソ) 1939~**  
フランス製の破片型手榴弾 F1 を手本に開発された、ソ連版 F1 手榴弾。第二次大戦期から現代まで東側陣営で広く使用されている。



**RG42 1942~**  
WW2期に緊急措置的に投入されたソ連製破片型手榴弾。

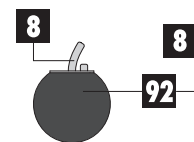


**RGD5 1954~**  
第二次大戦後にソ連で作られた破片型手榴弾。コピーモデルも多く、多くの紛争地域で目にするタイプ。

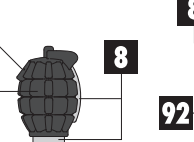


**RKG3 1950~**  
ソ連製の対戦車手榴弾。成形炸薬弾を有し、柄部分に内蔵されたドラッグシューターが投擲後の飛行姿勢を安定させながら弾頭部を装甲に当てることで成形炸薬効果を最大化する。近年では、ドローン搭載用爆弾として使われることも多い。

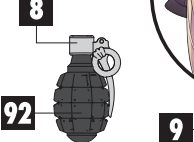
other(その他)



**No.15 1915~**  
WW1期にイギリスで用いられた手榴弾。クリケットボール手榴弾とも言われた。漫画に出てくる記号的な「爆弾」にソックリな形だ。



**No.36 Mk.1 ミルズ 1915~**  
現代の手榴弾の礎ともいえる機能を備えたモデル。WW1期に使われ、同シリーズは1980年代までイギリス連邦で使用された。



**F1(仏) 1915~**  
WW1期のフランス製破片手榴弾。世界に輸出され、各国の手榴弾開発に影響を及ぼす。



**九七式手榴弾 1937~**  
WW2期に日本軍で使用された破片型手榴弾。打撃信管型。ボディ上面は赤く塗られている。

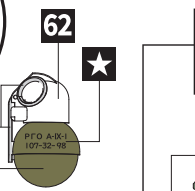
旧日本軍の手榴弾は、右や左の鉄管に信管頭部を打突し、火花を飛ばして点火する。

**九九式手榴弾 1939~**  
WW2期の日本軍の手榴弾。九七式より小型で軽量。甲と乙の2タイプがあり、乙型は手投げ専用。甲型は近距離では手投げ、遠距離では擲弾筒を用いて投射する。

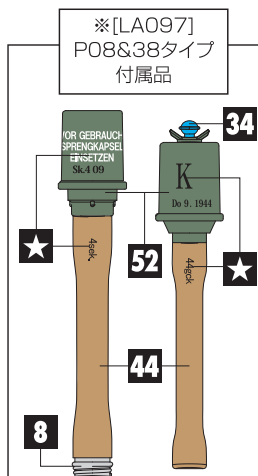
**M39卵型手榴弾 1939~**  
M24柄付手榴弾の後継として1939年から生産された卵型手榴弾。携行性は高いが、加害半径が小さいことから攻撃型手榴弾に分類された。頭頂部のカラーで信管の遅延秒数を識別する。

**67式柄付手榴弾 1967~**  
中国で作られた柄付手榴弾。それまでの63式木柄手榴弾にあった問題点を改良し、中国製手榴弾の標準モデルとして広く普及した。

指定防衛校生必携だね  
街で行動する



**RGN/RGO 1981~**  
1981年に採用され、ソ連崩壊後のロシアでも使われる手榴弾。RGNが攻撃型手榴弾で、RGOは破片手榴弾。弾殻下面の溝で識別可能(本キットでは同一形状)。



**M24 1924~**  
持ち手が付けられたドイツ製手榴弾。“ポテトマッシャー”のあだ名を持つ。この弾頭部を6個ほど束ねた即席対戦車手榴弾も存在した。

**M43 1943~**

※[LA097] P08&38タイプ 付属品

※本マーキング図解は実機の公開資料と推測によるものです。予めご了承ください。